

実践のまとめ（第3学年 英語科）

上越市立城東中学校 教諭 吉川 遥

1 研究テーマ

音読とSmall Talkを通して自己の意見を深め、 「書くこと」につなげる生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領には、「書くこと」の目標として「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。」ことが挙げられている。また、「『考えたことや感じたこと、その理由などを書く』とは、『聞いたり読んだりしたことの要点を捉え、自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができること』を意味している」と述べられている。

研究対象の学級での授業では、単元の導入において、目的・場面・状況を明確にした課題の提示が不十分であった。そのため、パフォーマンステストや単元の目指す姿と日々の学習内容がつながっていないことが多く、生徒は日々の学びを生かすことが難しくなっていた。

生徒が様々な学習内容を生かして目指す姿に到達するには、目的・場面・状況が明確な学習課題の提示と、自信をもって言語活動を行うための音読活動といった十分なインプットが必要であると考え。そこで本研究では、様々な活動の目的や言語の使用場面を明確に生徒と共有し、最終目標に向けた学習内容をこれまで以上に深い学びとしたい。加えて、生徒が既習事項を生かしてまとまりのある文を書くことを最終的な目標に見据え、テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 単元シートの活用

6月から毎時間の目標や単元の目指す姿が記載された単元シートを活用した。シートを活用することで、どの生徒も目指すべき姿や、学習内容を理解するために必要なことを把握し、見通しをもって活動に取り組むことができていた。本研究では、意見文の土台となる教科書本文の読解において、シートに沿って十分に知識をインプットし、全員が必要な知識を身に付けた状態で自己の考えを表現することができるよう工夫する。

② 「つながる学び」「いかす学び」の実践

本校では、研究主題を「基礎・基本を土台とした『つながる学び』『いかす学び』」としている。そこで本研究では、生徒が言語活動の場面で仲間とつながり、より意欲的に取り組むことができる学習課題の設定と、仲間とのつながりを通して学習内容を深め、自己の考えにいかせるような活動を目指す。

(3) 研究テーマに関わる評価

① パフォーマンステストにおいて、80%生徒がSかAの評価をとることができる。

② テスト後に行う生徒の結果分析アンケートについて、英語学習に対する肯定的な記述が増える。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

PROGRAM 5 The Story of Chocolate (Sunshine English 3 開隆堂)

(2) 単元の目標

- ① 人やものを詳しく説明して表現する。
- ② チョコレートの歴史やフェアトレードについて話す。
- ③ 自分の好きな人やものなどについて、意欲的に表現する。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 関係代名詞の使用場面や用法を理解している。	学習内容について、自分の考えや感じたことをまとめ、読み手にとって読みやすく分かりやすい意見文を書くなどして伝え合っている。	学習内容について、自分の考えや感じたことをまとめ、読み手にとって読みやすく分かりやすい意見文を書くなどして伝え合おうとしている。
② 既習事項を用いて意見文を書くなど伝え合う技能を身に付けている。		

(4) 単元の指導計画と評価計画（全10時間、本時9／10時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (2)	・ 関係代名詞（主格）の形・意味・用法 ・ 関係代名詞を使用した活動	◎関係代名詞の使い方を学ぶ。 ◎教科書Scenesを音読する。 ◎関係代名詞を使用したクイズを作成する。	知・技 関係代名詞を使ってクイズを作成できる。 【ワークシート】
2 (6)	・ 教科書本文の読解 Program 5 Think 1 ・ 教科書本文の要約 Program 5 Think 1 ・ 教科書本文の読解 Program 5 Think 2 ・ 教科書本文の要約 Program 5 Think 2 ・ 教科書本文の読解 Program 5 Think 3 ・ 教科書本文のまとめ	◎Scenesの音読と類似した場面でペアトークをする。 ◎本文の音読を行う。 ◎チョコレートの起源について理解する。 ◎学んだことを要約し、相手に伝える。伝えた内容について英語で書く。 ◎現代のチョコレートが誕生した経緯を理解する。 ◎学んだことを要約し、相手に伝える。伝えた内容について英語で書く。 ◎チョコレート産業の課題やフェアトレード商品について理解する。 ◎Think 1～3を通して感じたことをまとめ、相手に伝える。伝えた内容について英語で書く。	知・技 まとまりのある英文を読むことができる。 【動画による提出】 思・判・表 チョコレートの誕生について、フェアトレード商品とは何かを英語で相手に伝えることができる。 【行動観察】 主体性 自己の考えを深めるために、仲間と意見交換している。 【行動観察】

3 (2)	・意見文作成（本時） ・パフォーマンステスト（別紙参照）	◎フェアトレード商品について学んだ情報をもとに、意見を交換しあう。 ◎フェアトレード商品について、意見文を作成する。	主体性 意見交換を通して自己の意見文に必要な表現を学んでいる。【行動観察】 思・判・表 教科書で学んだ現状を踏まえ、意見文を作成できる。 【パフォーマンステスト】
----------	---	--	--

4 単元と生徒

(1) 単元について

これまで、「バスケットボールの歴史」や「アメリカンサインランゲージ」について学習し、物事の歴史や広がりについて考えを深めてきた。本単元では、初めて「世界が抱える」課題について考える。そこで、自己の生活を振り返ったり、仲間の考えを参考にしたりしながら身の回りの課題について意見を述べる力を身に付けさせたい。

(2) 生徒の実態

英語の授業では、スピーチや生徒同士のコミュニケーション活動、ALTとのパフォーマンステストなどに意欲的に取り組む。一方で、「書くこと」の領域における生徒の状況としては、二極化傾向にある。これまでの単元テスト及びパフォーマンステストでは、得点率が80～90%の生徒と得点率が10～20%の生徒が多くを占めている。

そこで、まずは「読むこと」でフレーズや記述の定着を図るために、2学期から学年共通の活動として、音読チャレンジを始めた。目標タイムを設定し、目標に向けて何度も本文を音読することでフレーズが定着し、内容理解における十分なインプットにつながった。また、単元シートの学習課題を毎回確認したり、振り返ったりする時間を設けることで、毎時の目指す姿を共有することができた。本単元では、目指す姿を「書くこと」とし、教科書内容を「読むこと」によるインプットと、それについて「話すこと」のアウトプットの成果を「書くこと」につなげるために、単元シートを活用して見通しをもって活動に取り組ませたい。

5 本時の展開（令和6年10月22日実施）

(1) ねらい

フェアトレード商品を購入するか、自分の意見をまとめ、伝え合っている。【思・判・表】

(2) 展開の構想

- ① 生徒全員が、フェアトレード商品の特徴やその背景をつかみ、意見文の基盤とできるように一斉指導で確認する。
- ② 生徒全員が、自分の意見を持ち、意見文を作成できるように、仲間と意見交換する活動を複数回設ける。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛けや支援 ・予想される児童（生徒）の反応	□評価
導入 (10)	①音読チャレンジを行う。 ②Think 1～3 本文の内容についてペアトークで確認する。 ③フェアトレード商品の特徴とその背景、他にどのような商品があるか全体で確認する。	◎目標タイムを確認する。 ・What was original chocolate? ・Why are cacao farm workers poor? ◎ペアトークでは、教科書を使用するタイミングを限定し、音読やこれまでの活動の成果をアウトプットする場とする。 ・It costs a lot. ・Clothes、 tea、 coffee… ◎チョコレートではなく、フェアトレード商品に焦点が当たるように確認する。	
フェアトレード商品を購入するかどうか、自分の意見をまとめ、伝えよう。			
展開 (35)	④「フェアトレード商品を購入することに賛同するか」について、活動前に生徒に尋ね、黒板にネームプレートを貼る。 ⑤購入するかどうか、ペアトークを行う。 (2分×3) ⑥意見が異なる人とペアトークを行う。 (2分×3) ⑦ペアトークの内容も踏まえて、意見文を作成する。	“Do you want to buy Fair trade products? And why?” ◎多数の生徒が同一回答をした場合、購入を促す方法や、他の手だてを考えるよう展開を工夫する。 ◎対話中のよい表現や悩んでいる表現について、全体で確認する機会をもつ。 ◎全員が課題を達成できるように、様々な意見を取り入れるよう促したり、追質問したりする。 ◎本文の内容、仲間と自己の意見を取り入れるよう促す。	思・判・表 事実や考えをもとに意見文を作成できる。 【ワークシート】
振り返り (5)	⑧学びの振り返りを行う。	◎学習内容だけでなく、授業中の自己の取組についても触れるよう声掛けする。 ・フェアトレード商品をまずは意識的に見つけようと思う。	主体性 教科書本文や、仲間の意見から学んだことについて記述している。 【ワークシート】

(4) 評価

・フェアトレード商品を購入するかどうか、英語で自分の意見を伝え合っている。

【思・判・表 ワークシート】

・活動における自己の取組について振り返ることができる。【主体性 ワークシート】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① Target Sentencesを活用しながら文法事項を学習する活動（第1～2次）

これまでの文法学習では、スライドを使用しながら視覚的に文構造を説明し、学習した文法を使って作文をしたり、即興でSmall Talkを行ったりしていた。

本単元では、Target Sentencesとして教科書のモデル文の暗唱に取り組んだ。そして、暗唱した文をノートに書き起こし、音声と文字が一致するよう確認した。この活動を行うことで、英語が得意でない生徒も音声として文法を理解することができていた。また、単元テスト後のアンケートでは、「暗唱した英文をノートに書く活動を続けてほしい。その活動で文法理解が深まったから。」と肯定的な回答をした生徒が多くいた。

② 音読とSmall Talkを通して内容の理解を深める活動（第3～8次）

教科書本文の読解では、本文のリスニング、内容確認、音読、RetellとしてのSmall Talkという流れで行った。特に本単元では音読に力を入れ、目標タイムを設定し、生徒が「音読チャレンジ」として、目標タイムに近い音読の様子を動画で撮影し、動画を提出した。目標に向けて何度も音読をしたり、発音や文構造を仲間と確認したりすることでより深い理解につながった。Small Talkでは、本文の内容について相手にRetellし、内容理解を深めたり、重要なフレーズを覚えたりすることにつながった。

③ 仲間との対話を通して自己の考えを深める活動（第9～10次）

1つのテーマについて、自己の考えを伝え合う活動を行った。この活動を行うことで、生徒は、相手を説得するために、どのような表現を用いたらよいか考えるきっかけになり、級友の多角的・多面的な意見に触れ、自己の意見を再構築することができた。また、考えや意見を伝えるときに使用するフレーズや、聞き手のリアクションとして使用するフレーズを身に付ける学習にもつながった。

(2) 研究テーマに関わる評価

研究テーマに関する評価結果①は以下の通りである（表1）。また、評価項目は以下の通りである。（図1）。

表1（評価結果①）

パフォーマンステストの評価 (20点満点)	S (18～20点)	A (16～17点)	B (10～15点)	C (0～9点)
人数(32人中)	11人	2人	12人	7人
割合	約34%	約6%	約38%	約22%

評価ルーブリック				
	内容①	内容②	条件	英文の正しさ
S	記事や自身の知識を使いながら、相手の知りたいことについて書くことができる	自分の考えと説得力のある深い理由を書くことができる	文数と語数が条件の9割を満たしている	正しい英文を書くことができる(条件8割以上)
A	記事に触れながら、相手の知りたいことについて書くことができる	自分の考えと説得力のある理由を書くことができる	文数と語数が条件の8割を満たしている	おおむね正しい英文を書くことができる(条件8割以上)
B	相手の知りたいことについて書くことができる	自分の考えと理由を書くことができる	文数と語数が条件を満たしている	おおむね正しい英文を書くことができる
B-	相手の知りたいことについて書くことができる(がわかりにくい)	自分の考えと理由を書くことができる(がわかりにくい)	文数と語数が条件のどちらかを満たしている	英文を書くことができる
C	相手の知りたいことについて書くことができない	自分の考えと理由を書くことができない	文数と語数が条件を満たさない	英文を書けない
C-	テスト未受験			

研究テーマに関する評価結果②では、以下のような生徒の記述がみられた（表2）。

表2（評価結果②）

生徒A (評価S)	Noの人の立場にたって、違う人の意見も考えて文を考えることができた。
生徒B (評価S)	本文で使われていた文法や文章を利用して、自分の意見と結び付けて書く練習をした。
生徒C (評価A)	授業でフェアトレードについてたくさん勉強して、よく知ることができた。テストでは、お題が変わっても授業でやったことを生かして書けた。
生徒D (評価B)	授業では、音読で単語を覚えるようにした。そして、内容を理解してテストで使える言葉を覚えるようにした。
生徒E (評価B)	関係代名詞を使ったら、より自分の伝えたい意見を書くことができたと思った。自分の知っている単語をもっと増やすことを目標に頑張りたい。
生徒F (評価C)	単語が全然書けなくて、全くわからなかった。

上記の結果から、SやAの評価を得た生徒は、Small Talkで級友からの意見を受けて、自分の意見を表現していることが分かる。さらに、表1の結果から、SやAの評価を得た生徒の合計は約40%であり、内容面を意識しながら、英文を書くことができた。これは本研究のSmall Talkや音読の活動の成果であると考えられる。

一方、BやCの評価を得た生徒は、内容ではなく言語面で困難を抱えていたことが分かった。これは語彙や文法の定着が不十分であり、Small Talkで得た内容面の補強を書く活動に還元できていないからだと考える。この結果から出た課題は、以下で述べる。

(3) 今後の課題

① パフォーマンステストと、目指す姿の乖離について

これまでも、単元計画に沿って学習する際は、単元の初めにパフォーマンステスト課題を提示していた。しかしながら、テストが近づき、生徒が評価項目に注目すると、自己の考えや身に付けた表現よりも、どうやったら高得点を獲得できるか、を重要視してしまう傾向がある。「反対意見を書いたほうが、理由が書きやすいから語数を稼げる。」や「very goodと書いておけばとりあえず伝わる。」などといった発言が広がり、画一的な意見文になってしまった。今後は、評価項目について、自己の考えを十分に発揮できるような項目を設けることや、設けた項目について教師が積極的に触れたりアドバイスしたりする必要があると考える。

② 生徒が「できた!」を実感できる指導について

日々の学習において、生徒が自分の意見をうまく表現できないと話すことが多くある。話す活動では、生徒は意欲的に活動に励み、力を身に付けたが、ペーパーテストにおいて、その力が発揮できず、自信を無くしてしまうことが多くある。本研究では、Small Talkや音読で身に付けた表現を使って書く活動だったため抵抗は少なかったが、今後はどのような使用場面でも、自分の考えや正しい答えを少しでも多く書くことができ、「授業のおかげでできた!」と実感できる生徒を育成したい。そのために、授業での帯活動を工夫し、Small Talkをする授業と基本的な文法や単語を復習する授業というサイクルを1年時から定着させ、4技能をバランスよく向上させたい。

<参考文献>

文部科学省（2018）. 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂出版株式会社